

藤沢市は、障害者ら災害時の避難に助けが必要な人（災害時要援護者）の支援方法を動画で解説する「災害がおきたときみんなで支えあうために」を作製し、インターネット配信を始めた。市内の目や足が不自由な人に出演してもらい、撮影やナレーションはボランティアらが引き受けた。市によると、災害時要援護者支援を目的とした動画製作・配信は県内で初めてという。

阪神大震災で多くの被災者が隣人に救出されていたことを受け、市は災害時要援護者名簿を作成し、支援者ハンドブックを市内 470 の自主防災会に配った。しかし、要援護者から「理解できない」との声が出たほか、防災会からも「分かりにくい」との指摘があった。

このため市は、理解しやすいよう動画のガイド製作を決めた。視覚障害者福祉協会や肢体不自由児者父母の会などから「出演もするし、意見も聞いてほしい」との申し出もあった。

撮影・編集は NPO 法人・湘南市民メディアネットワーク、ナレーションは録音奉仕会が担当して、撮影は 2011 年 3 月 3 日に開始された。直後の東日本大震災で製作は一時中断したが、東日本大震災の

教訓なども盛り込んで再開した。

編集大詰めの昨年 3 月にはメディアネットワーク事務所が火事で全焼し機材が焼けるアクシデントもあったが、困難を乗り越えて今年 2 月末に動画ガイドは完成した。

ガイドは 24 分間で、市のホームページからアクセスできる。災害時に近くで笛の音がしたら要援護者が助けを求めているパニックを起こした自閉症児には絵を描いて穏やかに説明すると落ち着く——など実践的な内容を盛り込んだ。撮影する度に内容を障害者らに見てもらい、意見を聞いて何度も撮り直したという。

声を吹き込んだ内田昌子さん（68）は「東日本大震災では防音室が使えなくなった。電車音が入ってしまう度に読み直しもした」と苦労を振り返る。カメラを回した中野晃太さん（27）は「健常者にも参考になる内容」と語る。

藤沢市内の災害時要援護者は妊婦らも入れると約 5 万人という。4 月には DVD も作って貸し出しを始める。問い合わせは市福祉総務課（0466・50・8245）。

（毎日新聞・神奈川 2014 年 3 月 5 日）